

# 令和元年度 南信農業試験場試験研究の推進方向

## 技術開発の方向

- 南信地域は、なし、かきを始めとする果樹など多彩な作物が栽培されています。変化に富む気候や地勢を活かし、生産者や消費者の要望に応えるため、企業、関係機関・団体、生産者等との連携を図りながら、地域に貢献する試験場を目指して、新たな品種育成、技術開発、情報発信に取り組みます。

## 試験研究のねらい

## 主要課題とその内容

### I 日本をリードする研究力を活かした信州農業を革新する新品種・新技術の開発

#### 1 魅力あるオリジナル品種の開発

- 日本なしの高品質品種の育成を進めます。

#### I-1 日本なしの新品種育成 (H30~R4)

- ・ 果実品質（大玉・高糖度・良食味）が優れ、病害複合抵抗性（黒星病・黒斑病）を持つ日本なし新品種の育成を進めます。

#### 2 環境への負荷を軽減できる技術の開発

- 農薬を減らした果樹の病害虫防除技術の開発に取り組みます。

#### I-2 なし、かきの病害虫の発生生態に基づく効率的防除体系の確立 (H30~R4年)

- ・ 日本なし黒星病等の被害を軽減する効率的防除技術の開発を進めます。
- ・ 交信攪乱剤を利用した日本なし、かきの防除技術の開発を進めます。

#### 3 多分野と連携した先端的な農業技術の開発

- 担い手の不足に対応するため「市田柿」加工工程のロボット開発に取り組みます。

#### I-3 「市田柿」剥皮工程のための自動判別・高精度位置決めロボット開発 (H29~R1年)

- ・ 果実の大きさと熟度を判別し剥皮機に自動でセットするロボットの開発を、大学、企業、JAと共同して進めます。

#### 4 温暖化に適応するための技術開発

- 温暖化による日本なし、「市田柿」への影響把握と対応策の検討を進めます。

#### I-4-1 地球温暖化が日本なし栽培に及ぼす影響評価と対策技術 (H30~R4年)

- ・ 日本なしの果実障害や枝幹障害等の発生に及ぼす影響を調査します。

#### I-4-2 「市田柿」収穫適期の把握 (H30~R4年)

- ・ 「市田柿」の果実品質に及ぼす温暖化の影響について実態把握を行います。

### II 生産現場の課題を解決するための技術開発

#### 1 安定生産のための品種改良・技術開発

- 日本なし「サザンスイート」の安定生産技術の確立に取り組みます。
- 「市田柿」原料かきの安定生産技術の開発に取り組みます。

#### II-1-1 「サザンスイート」の栽培管理技術の確立 (H30~R4年)

- ・ 食味が優れ、主要病害に強い特徴を活かし、高品質な果実を安定して生産できる技術の確立に取り組みます。

#### II-1-2 「市田柿」の樹体管理技術の確立 (H30~R4年)

- ・ 着果管理方法による果実品質への影響及び適正樹相の指標要因の検討に取り組みます。

#### 2 低コスト・省力化・軽労化のための技術開発

- 日本なし、「市田柿」の省力・軽労栽培技術の開発を進めます。
- 「市田柿」の減肥技術の開発に取り組みます。

#### II-2-1 夏季接ぎ木による日本なしジョイント樹の養成法の改良 (H29~R1年)

- ・ 作業の繁忙期を避けて夏季に樹体をジョイントする技術と、苗木を直接ほ場へ定植して育成する技術の開発を進めます。

#### II-2-2 日本なし栽培の省力化、軽労化が期待できるJVトレリス樹形の検討 (R1~5年)

- ・ 樹体ジョイント仕立ての改良形であるJVトレリス樹形の有効性を「南水」で検討します。

#### II-2-3 「市田柿」原料かきを主体としたかき園に対する効率的施肥法の開発 (H30~R4年)

- ・ 「市田柿」の窒素吸収特性に基づいた適正施肥量の把握と減肥技術の開発に取り組みます。